

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540 A-169	24-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Convergence of Alcohol Consumption and Dietary Quality in US Adults Who Currently Drink Alcohol: An Analysis of Two Core Risk Factors of Liver Disease 米国成人現在飲酒者におけるアルコール消費と食事の質の融合：肝疾患の2大リスク要因に関する横断的解析		
執筆者		
Ting PS, Lin WT, Liangpunsakul S, Novack M, Huang CK, Lin HY, Tseng TS, Chen PH.		
掲載誌		
Nutrients. 2024 Nov 13;16(22):3866. doi: 10.3390/nu16223866.		
キーワード	PMID	
NHANES、アルコール飲料の種類、健康的食生活指数(HEI)、食事の質、脂肪性肝疾患	39599652	
要旨		
<p>背景：米国ではアルコール消費および不健康な食習慣の増加が公衆衛生上の重要課題となっており、これらは肝疾患を含む慢性疾患の発症に関与することが知られている。先行研究ではアルコール摂取量と食事の質との関連が示されているが、アルコール飲料の種類と食事の質の関係性については十分に検討されていない。本研究は、アルコール飲料の種類ごとに食事の質を比較し、肝疾患予防の観点からの示唆を得ることを目的とした。</p> <p>方法：2017～2020年の全米健康栄養調査 (NHANES) における20歳以上の現飲酒者1,917名のデータを用いて横断解析を実施した。食事の質はHealthy Eating Index(HEI)-2015により評価され、アルコール飲料の種類に応じて「ビールのみ」「ワインのみ」「リキュール・カクテルのみ」「複数種類」の4群に分類した。「ワインのみ」の群を比較対象群にして、人口動態学、社会経済学、生活習慣、メタボリックシンドローム有無の変数を共変量として調整した多変量ロジスティック回帰モデルを採用し、各群間のHEIの差異を検討した。</p> <p>結果：ビールのみを飲用する群は、他の飲料群に比して収入が低く、喫煙率が高く、身体活動が不十分である傾向が認められた。また、ビール群のHEIスコアはワイン群に比して有意に低く、調整モデルにおいても-3.12ポイントの差が認められた (95%信頼区間: -5.50～-0.74)。一方、リキュール・カクテル群および複数種類群とワイン群との間にHEIスコアの有意差は見られなかった。感度分析でも同様の傾向が確認された。</p> <p>結論：ビールを主に摂取する成人飲酒者は、他のアルコール飲料消費者に比して食事の質が低いことが示された。これは、文化的・行動的背景の違いが影響している可能性がある。公衆衛生政策や個別の栄養・生活習慣指導において、アルコール飲料の種類と食事の質の相互作用に着目することは、肝疾患を含む慢性疾患の予防の観点から有用であると考えられる。</p>		